



きらっと彦根

彦根の魅力★再発見



“彦根りんごのシードルで彦根城世界遺産登録を乾杯！”

2022年4月28日、彦根りんごの苗がやってきた！彦根りんご保存会の八木原俊長さんと陶芸家中川一志郎さんが届けて下さいました。植えた場所は、重要伝統的建造物群保存地区の花しょうぶ通りの駐車場で、シンボルツリーを考えていた時に思いついたのが彦根りんごでした。[彦根りんごは和りんごの一種で、平安時代に中国から渡来し、実は小さくて扁平な形。平成に復活されました (文責：八木原俊長)]

2年間のコロナ禍のお休みを経てアートフェスタ勝負市が9月26日に開催され、この駐車場も「こども広場」開催の為に擬木のデッキやベンチの用意をし、「彦根りんごの小さな公園」として整備しました。

勝負市も一段落の10月、彦根りんごで作ったお酒のシードルで彦根城の世界遺産登録を乾杯したいと考えました。お酒も飲めない知らない私がお酒を造るのは、当然ながら多くの方々の協力があった事でした。彦根りんご保存会の芹川農園と何人かの個人から彦根りんごを頂く事ができ、滋賀県立大学の櫻井悟史先生と学生さん達は彦根りんごの調査や夏の水やりをして下さいました。

ラベルは、彦根城を思わせる書体を書道家に揮毫して頂き、彦根城の石垣に見立てたデザインと組み合わせました。ラベルと言う小さな世界に色々工夫し、滋賀県立大学OBの出口拓磨さんが根気よく付き合ってくれました。

2023年4月、桜の後に彦根りんごの花は咲き、その可愛さと華やかさに魅せられました。シードルは長野県飯綱にある林檎学校醸造所に委託醸造し、ラベルに販売元明記の為、結局自分で酒類販売業免許を取ることを決め、5月末

に受講と申請、7月4日に免許を取ることができました。

8月6日、芹川農園での彦根りんごの収穫祭。試験樹1本をシードル用に確保し、子供優先で収穫した後の残りの林檎も集めました。この年は猛暑で落下した林檎が多く、林檎の木は表作と裏作があり、この年は裏作のようで、拾い上げた林檎を入れても60kg未滿。醸造所に連絡したところ、その量では難しい断念してくださいと言われてしまいました。7日の朝、もう一度詳細を聞き、果汁の量が少ないとタンクの残りの空間が大きく雑菌が繁殖する為難しいとの事でした。8日の朝、やはりシードルの一連の工程を体験してみたいと思い、醸造所の小野司代表に再度電話をして何とか作りたく伝えました。最終的に小野代表は発酵し始めたら早めに瓶に入れて管理することでやってみましょうと引き受けて下さいました。10日の朝に、花しょうぶ通りの彩菜や近所の方々の冷蔵庫に保管した林檎を積み込み飯綱まで運び、林檎は洗って悪いところをカットして圧搾機にかけ41Lのジュースが取れ、これらを発酵させました。9月に入り順調に発酵し、瓶内発酵と連絡も逐次いただき、10月17日午前、待望の初荷が届きました。たったの105本ですが、大きな宝物でした。夜の19時から、協力して下さいました皆さんが集まり、到着したてのシードルをほんの少しずつですが分け合って乾杯。美味しいしまろやかで香り高いと評価をいただきました。

来年はもっと沢山の林檎を手に入れて、より多くの方に味わっていただき、彦根城が世界遺産に登録予定の2027年には皆さんで乾杯できるようにしたいと思います。

(結のまちづくり研究所代表、滋賀県立大学名誉教授 柴田いづみ)

建築とまちづくりセミナーIN彦根

2023年10月14日と15日の2日間、新建築家技術者集団と彦根銀座街商業協同組合の主催で、「建築とまちづくりセミナーin彦根」を開催いたしました。新建築家技術者集団とは「住民派のまちづくり、生活派の建築創造」を掲げている建築家/技術者の集まりで、全国組織の団体です。この度は彦根を舞台に、彦根銀座街商業協同組合をはじめとする地元の方々にお世話になり、70名を超える参加を得ました。

1日目は夏川記念会館にて池野保さんの講演「魅力あふれる滋賀の歴史的建造物の特徴および彦根城天守と保存修理」、滋賀には中世の社寺建築が全国一多く、近代に至るまでの建造物が数多く維持管理されていることや彦根城の大修理についてDVDも用いた解説をいただき、その後彦根城天守閣の見学をしました。夜は「伊勢幾」で交流会をし、宿泊は花しょうぶ通りにある鳥羽や旅館と清瀧旅館にて大人の合宿を楽しみました。

2日目は銀座商店街のコジマホールをお借りして、日本

で最初に作られた防災建築街区である銀座商店街について学びました。濱崎一志先生からは江戸時代の地割のまま建物ができている歴史的成り立ちや複雑なプランニングについて、阿部俊彦先生からは現状の認識調査や再生・活用への取り組みについて。その後、商店街理事長藤塚さん、副理事長井上さん、小島さん、プランナーの田邊さんを交えての座談会。休眠不動産見学会（まち歩き）や屋上イベントなどの映像も交えながら課題への取り組みや、体験しながら考えていく方向性などが語られました。その後実際に屋上やリフォームされたお宅などを見学し、再生活用の課題の深さと同時にこの空間が活かされる可能性も感じました。

また、彦根景観フォーラムの笠原啓史さんに足軽組屋敷の歴史と保存活動についてレクチャーいただき現地を見学しました。ちょうど足軽組屋敷の特別公開日で、どこでも丁寧な案内をしていただきました。江戸時代のままの細い路地や屋敷の豊かさに感動しました。

(新建築家技術者集団京都支部 川本真澄)



コジマホールでのセミナー



コジマビル屋上見学



足軽組屋敷見学

さとの宿だより 2つの美しい天井

一圓屋敷には、「つぐみ」と「やまどり」という2つの客室があります。屋敷の裏山に「野鳥の森」があることにちなんで、多賀町で見られる2匹の野鳥の名前を付けました。つぐみは、秋から冬に一圓屋敷の庭にやってきて、南天の実をついばみます。やまどりは、森の杉の落ち葉の陰に居たりしてびっくり。蔵を改修した雰囲気のある客室にはピッタリの名前だと思います。

ところで、客室「つぐみ」に入るとまず天井の隅がカーブしていることに気が付きます。そのカーブは、床の間の意匠を凝らした天袋の上のあたりですから、きっとこれもデザインされた天井に違いない、と誰もが思います。けれどもこれは、明治24年に茅葺きの屋根を改修して、瓦葺きの2階とするときに、軒が低いので、天井の隅を丸くせざるを得なかった結果とのこと。

また、1階のダイニングの太い梁も、令和の改修で出現したものです。もともと防寒のため、張られていた板を取り除いたら、中から現れたのでした。この太い梁をお客様に見て頂くことが、今では一圓屋敷らしい、誇らしいところです。

安政年間に建てられて170年、時代とともに素敵だと思える箇所の変遷もあり、そういうことも、お客様と一緒に楽しめたらなあと思います。

(多賀さとの宿一圓屋敷マネージャー 江竜美子)



多賀さとの宿 一圓屋敷

<https://www.ichienyashiki.jp/>

〒522-0317 滋賀県犬上郡多賀町一円149

Tel. 050-3319-1050 info@ichienyashiki.jp